

	対象	評価内容	目標値	肯定評価	
				前期	後期
1	児童	牧之原小学校に通うことが楽しい	90%	84%	87%
2		学校の授業は、楽しい	90%	88%	92%
3		友達に優しく接している	100%	95%	98%
4		失敗しても、気持ちの切り替えができる	90%	85%	83%
5		前向きに何でもチャレンジしている	90%	88%	85%
6		地域の人たちのことや地域の人と活動することが好きだ	100%	89%	88%
7	保護者	子供たちは、自分のよさに気付いている	90%	78%	66%
8		牧之原小は、通わせたい学校になっている	100%	78%	89%

	目標値を達成したもの
	目標値に至らなかったもの
赤字	前期よりも数値が向上したもの

分析・考察

- 学校では、行事や学級の活動、授業において、子供たちの「やってみたい。」を大切に計画を立てたり子供と内容を選んだりするような場面を増やしてきました。運動会や6年生主催のお祭り活動などを行うことで、子供たちは、主体性を高め、楽しさを実感するようになったきたのだと考えます。
- 授業では、「わかる・できる」ことを目指し、仲間と対話的な活動を行いながら学ぶことを重視して取り組んできました。内容がやや難しくなってきた後半でしたが、学ぶことを楽しんでいる児童が増えてきているのだと考えます。
- 仲間づくりのベースを思いやりのある言動と考え、具体的に指導したり、互いに良さを伝え合う活動を進めてきました。困っている子を助ける行動が増え、互いに譲り合う場面も増えており、学校の仲間がいてくれてよかったと実感している数値と考えます。今後も「みんなで幸せな学校を創る」ことを言葉や行動で表現できるよう支援していきます。
- 5 成功すること、間違えないことを子供たちも重視しているので、教職員は、めあて達成を支援しつつも、うまくいかない時にやり直す場面を設定したり、安心できるように関わったりしています。失敗することが自身の成長につながることを今後も支援していきます。
- コミュニティスクールディレクターの支援により、子供たちが地域に出て活動する機会や地域の方に来ていただくことは拡大してきています。やや数値が下がっています。子供たちの願いを活動に取り入れた計画を立てたり地域の方の支援を感謝の視点で振り返ることなどを行って、「牧之原大好き」の思いを膨らめて行きます。
- 子供たちに様々な活躍の場を設定し、自己有用感を高めようと取り組んできましたが、御家庭の皆様には、まだまだ自信なさげな様子が見えているのだと思います。また、良好な結果であることが安心や自信になりがちである傾向も見えてきました。取組の姿勢やそれぞれの良さが魅力であると子供たちが感じられるよう、「みんな違うけれど、みんな素晴らしい」と思える場づくりや支援を進めます。
- 保護者の皆様には学校教育への御理解や御協力を得て、共に子供を育てる態勢を整えていただいています。子供同士のかかわりや学校生活において、不安な思いを感じるがあったと考えます。今後も丁寧に子供の様子をお伝えすると共に、子供たちの困り感を御家庭の皆様と共に解決し、信頼アップにつなげて参ります。